※令和３年度以前入学生用

学校番号	1004

令和５年度　国語科

教科	国語科	科目	国語表現	単位数	2	年次	3
使用教科書	大修館「国語表現　改訂版」						
副教材等							

1　担当者からのメッセージ

・就職希望、及びＡＯ入試等での進学を希望している生徒に対して、自分の思いや考えを作文として表現が出来ることを目指します。
・また敬語に代表されるさまざまな日本語表現の特色や特徴を学びます。
・日々の授業での学習活動がとても大事な教科です。定期考査には学習計画を立てて臨んでください。

2　学習の到達目標

・目的や場にふさわしい語句を選んで、適切に自分の思いや考えを文章表現することができる。
・言語感覚を磨き、思考力を養成し、場面に応じて必要な言語表現ができる。
・日本語の語彙力を高め、伝統的な言語文化に対する関心を持ち、豊かな日本語力を身につける。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:話す・聞く能力	c:書く能力	d:読む能力	e:知識・理解
観点の趣旨	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとする。	目的や場に応じて効果的に話し、的確に聞き取ったり、話し合ったりして、自分の考えをまとめ、深めている。	目的、意図に応じた適切な表現による文章を作成する力を養う。		日本語の語彙力を高め、伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまりなどについて理解し、知識を身に付けている。
主たる評価方法	行動の観察 記述の点検 （ノート、ワークシート等）	行動の観察 （発表等のパフォーマンスの評価）	記述の確認及び分析 （ワークシート、原稿用紙） 定期考査		行動の観察 記述の確認 （ノート、ワークシート等） 定期考査

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和３年度以前入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点					単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d	e		
1学期	書いて伝える	わかりやすい文を書くための基本的な決まりを理解する。	○		◎		○	a:意欲的に学習に取り組み、言語に対する関心を深めている。 c:様々な文章表現の決まりを理解しながら文章を書くことができている。 e:文章の適切な表現の仕方を理解することができている。	a:行動の観察及び記述の点検 c、e:記述の確認及び定期考査
	自己PRと面接	これまでの経験から得たことなどをもとに、効果的な自己PRをする。	○	◎	○		○	a:意欲的に学習に取り組み、積極的に自分の考えを表現しようとしている。 b:適切な言葉遣いや表現の仕方で自分の考えを述べ、まとめることができている。 c:効果的な自己 PR になるように表現などに工夫をしながら自分の考えを原稿にまとめている。 e:適切な言葉遣いや表現の仕方を理解することができている。	a:行動の観察及び記述の点検 b:行動の観察 c、e: 記述の確認及び定期考査
2学期	メディアを駆使する	手紙やはがきなどさまざまな通信文の形式を理解して書く。	○		◎		○	a:意欲的に学習に取り組み、通信文の形式を理解しようとしている。 c:相手に内容が効果的に伝わるように、表現の仕方を考えながら通信文を書いている。 e:通信文の形式を理解することができている。	a:行動の観察及び記述の点検 c、e: 記述の確認及び定期考査
	会話・議論・発表	相手や場面に応じた会話や表現の仕方を学習する。	○	◎			○	a:今後の社会生活に生かすことを意識しながら、積極的に学習に取り組もうとしている。 b:相手や場面に応じた適切な言葉遣いで、自分の考えを効果的に伝えることができている。 e:相手や場にふさわしい言葉遣いや表現の仕方を理解することができている。	a:行動の観察及び記述の点検 b:行動の観察 e:記述の確認及び定期考査
3学期	表現を楽しむ	日本に古くから伝わる言葉遊びを楽しみながら、オリジナルの作品を作成する。	○		◎		○	a:さまざまな言葉遊びを知り、言語文化に対する理解を深めようとしている。 c:言葉遊びの仕組みや面白さを理解しながらオリジナルの作品を作成している。 e:さまざまな言葉遊びの仕組みや面白さを理解することができている。	a:行動の観察及び記述の点検 c、e: 記述の確認及び定期考査

※令和３年度以前入学生用

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　b:話す・聞く能力　c:書く能力
d:読む能力　e:知識・理解

※　評価の観点のうち「関心・意欲・態度」と「知識・理解」については、すべての単元に位置付けて〇印を、また、その単元で主として扱う国語の領域（「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」）に関わる観点には◎を付している。